

# 鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ (26)

## 龍・亀 すばらしい造形のカ

亀と龍が一体化した像は、亀龍寺（クリョンサ）だけでなくあちこちにありました。

翌日訪れた原州市郊外の金梯男神道碑（キムチェナムシンドビ）も、興法寺（フンポプサ）址三層石塔も、見事な造形でした。亀が龍になって天に昇るとい説があるそうです。

原州から車で1時間ほどの驪州（ヨンジュ）市にある古刹・神勒寺（シリョクサ）にも亀龍碑が立っていました。「人類和合」——日韓仏教文化交流協会と韓日仏教文化交流協会が共同して建立したものです。

原州郊外の農村地域にある忠孝祠の石塔も亀と龍で、シンプルでモダンなデザインの芸術作品のように見えました。

韓国の人びとは王の象徴である龍を、実に多様に、自由自在に消化しているようです。デザインのカのすばらしさは驚くほどです。あらゆる花鳥風月をシンプルな家紋・寺紋にデザインしてきた日本人のカと、いい勝負かもしれません。

そのカが、瓦の文様に発揮されているだ

けでなく、各所にある石碑にも生かされていることを思い知らされた気がしました。

前橋市 富山 弘毅



神勒寺 石碑 龍の部分



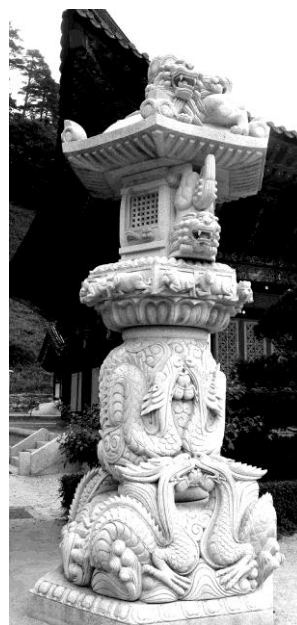
原州 興法寺址 真空大師塔碑 亀と龍



驪州 神勒寺 石碑 龍と亀



東草 洛山寺 石碑 亀と龍



江陵 月精寺 龍の石塔



原州 金悌男神道碑 亀と龍  
(龍の部分)



原州 忠孝祠 石碑 亀と龍  
(龍の部分)



江陵 烏竹軒 石碑 亀と龍  
(龍の部分)



原州 ヨンウオンサ 石碑 龍と亀 (龍の部分)



東草 洛山寺 石塔 亀と龍 (龍の部分)

こうした芸術的蓄積が、今年（2012年）も9～11月に開かれた国際現代美術展「光州ビエンナーレ」の高い水準を支える底力にもなっているのでしょう。

## シリョクサ 川のほとりの神 勒 寺

驪州（ヨンジュ）市の神勒寺は珍しい立地で、山奥ではなく大きな川のほとりにありました。

一柱門、観音殿、奉送閣、寂燃室、極楽宝殿、三聖閣、梵鐘閣など多くの建築物の中で、ひととき注目されたのが国宝の大蔵閣で、内部に石碑が保存されていました。国宝・石造多重塔も見応えのあるものでした。極楽宝殿の前の文化財・七重石塔の4面には5本爪の龍が彫られていました。

寂燃室のオンドル煙突にトッケビの目がデザインされていたのは前々回紹介しましたが、寂燃室の隣に1坪くらいの焼

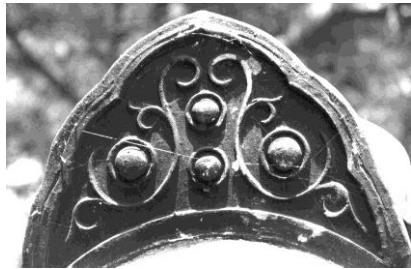
却炉がありました。あちこちの寺で見かけるものです。「ごみの焼却炉ですか」と聞くと、「ごみではありません。亡くなった方の衣服や靴など身の回りの遺品を、お経を上げながら灰にするところです」と教えてくれました。

日本では納棺のときに小物は一緒に入れることがありますが、少し大きなものは、辛い思いをしながらごみにしてしまう場合が多いのではないのでしょうか。



驪州 神勒寺 遺物焼却炉

その焼却炉に載っていたのは、トッケビ文様の望瓦でした。顔のポイントを丸であらわすシンプルなデザインに感動しました。それをさらに単純化して線で表現したデザインの望瓦が、大蔵閣(テジャンガク)と極楽宝殿にありました。額、眉、目、鼻、頬、口、ひげが線で描かれていると、金在煥会長が説明してくれました。



驪州 神勒寺 遺物焼却炉 望瓦 トッケビ



驪州 神勒寺 極楽宝殿 望瓦 トッケビ



驪州 神勒寺 国宝 大蔵閣 望瓦 トッケビ



驪州 神勒寺 梵鐘閣 望瓦 トッケビ

神勒寺でもうひとつ、特徴ある発見は、五角形の望瓦でした。ほとんどの望瓦、隅瓦は円形または半円形で、なだらかな線がかたちどられています。角張った五角形の望瓦は新鮮でした。



神勒寺 極楽宝殿 望瓦



神勒寺 三聖閣 望瓦 丸に梵字



神勒寺 極楽宝殿 望瓦

極楽宝殿の柱や壁には、色あせた龍の絵がいくつもあり、建物の古さを示しているかのようなでした。

そのあと、原州市に戻り、ヨンウォンサ(漢字不詳)という寺に行きました。大雄殿の望瓦は私の好きな龍のデザインでしたが初見ではなく、他に特筆すべき収穫はありませんでした。



原州 ヨンウォンサ 大雄殿 望瓦

## 通訳・尹永淑さんのこと

6日間の旅のうち5日間続けて通訳をしてくれた尹永淑（ユンヨンスク）さん（52歳）の半生を聞かせてもらいました。

尹さんはソウル生まれ。祖母が「これからは女も職業を持つことが大事。それには資格を取るのだよ」と、お金をを出してくれたおかげで、看護学校に通って看護師の資格を取りました。ソウルの国立病院に2年、勤めましたが、ドイツで看護師を求めていると誘われ、外国に行ってみたく応募しました。ドイツでも日本と同様、「安い労働力」を求めていたのでしょう。

1年ほど病院勤めをするうちに、韓国人の大金持ちである造船会社社長の妻（日本人）に認められ、親しくなりました。東京にも邸宅を持っている人でした。「日本に行きたい」「おいで」ということになり、社長夫人に雇われる形で来日、東京に住んで「よい暮らしをした」と言います。

その老婦人が亡くなり、失業。韓国の新聞社の東京支局にアルバイトで入り、その後、正社員になりました。

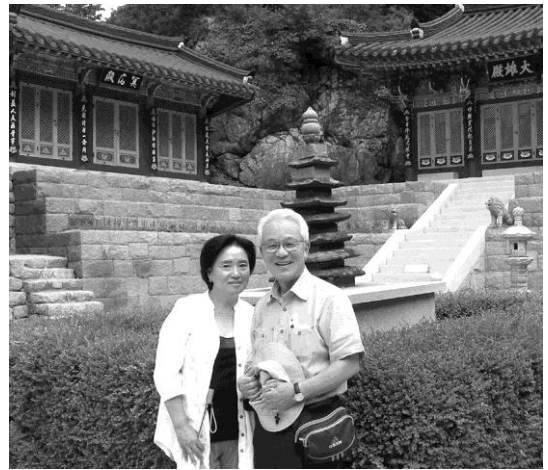
結婚して男の子をもうけました。東京生活が10年になったころ、一念発起して、大阪で焼肉店を始めました。商才があったので、順調に商売は繁盛して、奈良市、福井市も含め5店の経営者となり、各店を往復する日々をすごしました。

ところが、狂牛病騒ぎが深刻な打撃となり、経営が急激に悪化。「18年かけてためた利益が、ゼロになってしまった」そうです。夫とは、離婚しました。

借金を背負い込む手前で商売から足を洗い、帰国。いま、3年たったところです。

ソウルから車で2時間の原州（ウォンジュ）で塗装業を営み10人ほどの職人を使っている今の夫と再婚し、「甘い暮らしも厳しい苦勞もしてきて、いま、最高の幸せです」。30歳になった息子は、独身。ソウルで会社員だそうです。

尹さんは、日本語を書くのはそれほど得意ではないようですが、話すのは見事。私



原州 晋門寺 ユンヨンスク通訳と筆者

の旅の最終日は、「夫が役員をしているライオンズクラブの韓日の大会が釜山であり、日本語の通訳を頼まれている」と、早朝から大型バスで出かけました。

尹さんが、日本でのあれこれを懐かしそうに話したあと、思わずもらしたことがありました。「日本のラッキョウ漬けが食べたい。それから、あのお寿司に添えるショウウガ、そう、ガリって言ったっけ。あれが懐かしい。福神漬けも。ああ、日本のお寿司が食べたい」。

訊くと、お寿司はあるのだけれど、日本の寿司飯とは酢の利かせ方が違って「おいしくない」と言うのです。「それに、ポン酢。寒くなってなべの季節になると、ポン酢がほしいと思う」。

帰国して半月たったころ、私はラッキョウの蜂蜜漬け、ガリ、福神漬け、ポン酢を箱につめて送りました。この種の贈り物は風変わりだろうな、と思いながら。航空便で、翌々日には着いたようです。

おまけの話。韓国人は18歳になるとすべて、国民としての登録証を持ちます。それにはハングル文字の名前と（カッコ）して漢字名が記入され、指紋が押されます。

しかし、漢字名は実生活上ではほとんど使う必要も機会もなく、ハングル文字だけで十分なのです。「下手をすると、自分の漢字名の文字を忘れてしまいそうですよ」と、ユンヨンスクさんは笑っていました。

（つづく）